毎日歌壇

水原紫苑 選

記憶とは光の剝がれたフレスコ画触れるたび粉になってまたなって　安城市　唐澤　うに

〈評〉フレスコ画よりも記憶はもろくてはかなく、いつわりの輝きをまとったりもする。

目瞑ればさらに獣もあらはれず　白木蓮は清らなる檻　東京　吉岡　耕大

〈評〉白いモクレンはけものを飼っているとどうして思うのか。香りのせいか。

なめらかに失つてゆく切先よ海硝子ほの白く透けたる　東京　山野ゆかり

太陽が慌てて空を過ぎていく　一体誰が火を放ったの　岡山市　松井　度

ひらくたび本はしずかな二枚貝めくればあまい呼吸を吐いて　東京　石川　真弩

好きになるいつか私も私のことコインはひかる裏も表も　横浜市　永永　キヌ

過去へ行く道を探して暁に祖母のひろげる曼荼羅がある　高島市　くらたか湖春

滅びたる果樹より残り香漂ひてさそはるるまま身を横たふる　東京　岩本　遥

ただいちど君にひらいたほほえみをつまずきながら今も歩くよ　横浜市　安西　大樹

父からの寄木細工を見つけたり五月の風が窓を叩いて　川崎市　新井　将

伊藤一彦 選

毎日のように流れる先生が元先生になりゆくニュース　金沢市　竹内　一二

〈評〉学校の先生の重大な不祥事が相次いでいる今を歌っている。抑制した歌い方だが、深い嘆きが感じられる。

ぽつねんと夜にかなしみやってきてコンビニの灯がぽつねんとある　福島　阿部はづき

〈評〉「ぽつねん」の語の繰り返しがポイント。コンビニの灯に一層悲しくなったか。

耳慣れし人身事故のアナウンス慣れてはならぬ死者の心情　藤沢市　井上　渚

大勢の人の主張を呑み込んで黙って壁は塗られ消される　熊本市　貴田　雄介

刑罰で威して守るほど俺は嫌われているのかと日の丸　京都市　寺西　和史

バンクシーの正体暴くな反権威謎の画家ゆえ共感を呼ぶ　小牧市　白沢　英生

ペルシアのバビロン捕囚解放の恩義を忘れ核を恐れて　神戸市　前田　達生

平凡な職務経歴書の中にスパイスのようにまぶされた嘘　松戸市　小林　里純

海松色の濠に飛びこむ春の亀バタフライ選手のやうに肩から　武蔵野市　谷口　菜月

ババ抜きを知らぬムコ殿フランス人淡々として3回終える　横浜市　富樫　篤子

米川千嘉子 選

「ママ」「ばばぁ」「おかん」我らは出世魚いざ子育ての大海をゆく　宮崎　門田　祥子

〈評〉成長とともに子が母を呼ぶ言葉が変わってゆくから母は「出世魚」。子の反抗期に悩むお母さんに効きそうな一首。

娘の助けでWBC見れましたオールドメディアに裏切られた老い　西海市　まえだいっき

〈評〉テレビ中継なしに驚いた人は多い。急ぎネットフリックスへの加入を頼んだか。

本当のことは言わずにいてあげるからずっと一緒にいようねと言う　伊東市　野酸　実

長寿国なるを憂ふる国に飼はれ動物園の象亀のあくび　名古屋市　浅井　克宏

病識の欠けたるままの母の身を乾涸らびながらバラが見ていた　筑紫野市　桂　仁徳

「ばけばけ」の「日に日に世界が」呟いて二階より見るランドセル五つ　野田市　片倉　伸明

帰省の最後のお決まりはいつもの小路へと先回りして手を振る義母さん　千曲市　中村　美樹

さばかりの事で悩むのやめなさい子に言った我は何者なのか　春日市　林田　久子

種からも球根からも芽を出して毒もつ高砂百合は増えゆく　生駒市　宮田　修

しなやかな呟き言葉なぞりたく人目を忍び一人カラオケ　新発田市　飯田　英範

加藤治郎 選

腕力でガツンと一発それで決まりそんな世界に僕らは住んでいる　仙台市　多田　宜文

〈評〉荒っぽい歌である。今、日常生活でこんな暴力が振るわれたら非難ごうごうだろう。そんな世界であることを歌った。

バブの音をバブのこえだと聴く夜は小さくちいさく満たされている　津市　川原田明子

〈評〉バブという入浴剤が小さな音を立てる。商品が詩になるのは現代短歌である。

手のひらを開けば光を失った蛍みたいな私の言葉　横浜市　友常　甘酢

花束を手渡すように駅のすみ最初で最後の淡いくちづけ　鳥取市　中之島　潤

古本の匂いにまぎれた手紙だけあなたの声でまだ読めてしまう　名古屋市　森本　有

休日は背骨をぬいてしまいたい　眩暈のなかに身を落としてく　狭山市　鈴音りんか

最後まで好きだった本を生活にとかしてそんな本になりたい　守口市　寺前　晴

電車とは春のひかりをのせる箱そういえばもう返せないニット　所沢市　神田　望

そのおんなやたらうぶ毛をふるわせて空気を硬くやわらかくする　京都市　土　玉

宝くじ十億当てた校長がすべてを捨ててアフリカへ行く　東京　嶋村　純

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や、同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁です。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。

入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開し、本社が作成または許諾した出版物やメディアに掲載することがあります。